



移行に向けて動き出している事例を紹介します。

## ●亀川小学校・・・児童数406人

平成28年度に校内検討委員会を4回実施。既存の運動部活動ごとに受け皿となる社会体育組織を作り、順次移行していくという方針を決定。

現在は、サッカー、女子ミニバスケット、バレーボールで組織が立ち上がり、平成29年4月から外部指導者に学校の職員も加わって活動がスタートしています。ソフトボールも立ち上げに向けて調整が進んでいます。



▲外部指導者による指導

|                                                                                    |                                                                                             |                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| <p>マローラ<br/>【MAROLA亀川】</p> <p>種 目：サッカー<br/>対 象：1年生から<br/>部 員：約70人<br/>指導者：約10人</p> | <p>ビー・ラビッツ<br/>【B. Rabbits】</p> <p>種 目：バスケットボール<br/>対 象：4年生以上の女子<br/>部 員：23人<br/>指導者：5人</p> | <p>ミライ<br/>【Mirai】</p> <p>種 目：バレーボール<br/>対 象：3年生から<br/>部 員：15人<br/>指導者：6人</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|

## ●倉岳小学校・・・児童数119人

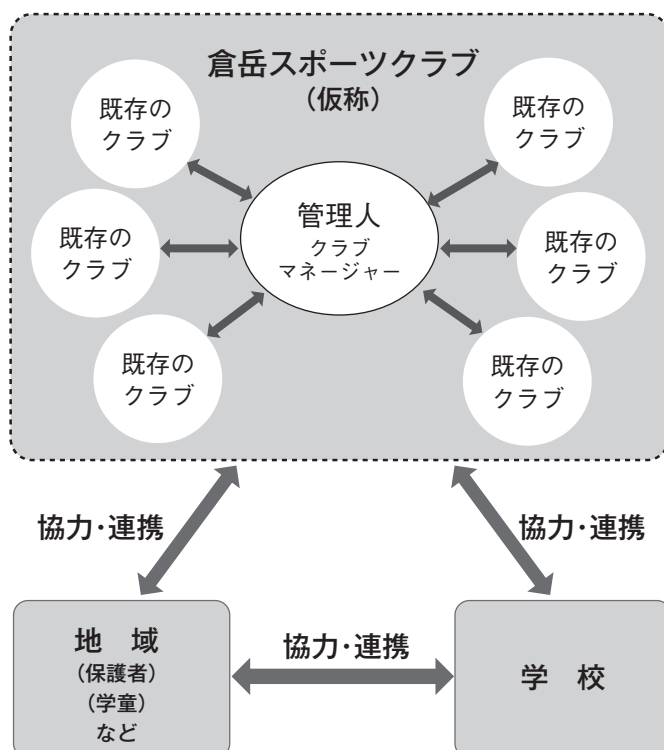
新たに社会体育クラブを組織するのではなく、地域に既にある剣道や柔道、バスケット、サッカー、陸上、バレーボールのクラブと連携していく方向性を確認。各クラブの共通する事務を一本化するため「倉岳スポーツクラブ(仮称)」の立ち上げを目指しています。

7月には、県体育協会理事を招いて、保護者向け講演会を実施しました。



▲講演会のようす

◆倉岳スポーツクラブ(仮称)イメージ図(案)



「小学校の運動部活動は社会体育へ移行する」という県教育委員会の方針を受け、本市でも検討委員会や各学校の校内検討委員会で協議が進められています。

完全移行まで残り1年半となった今の取り組み状況についてお知らせします。

### 運動部活動と社会体育の違い

「運動部活動」は、学校の管理下であり、学校教育の一環として行われるスポーツ活動です。県や市において練習日数など指針が定められています。

「社会体育」は、主として地域社会や家庭などで行う体育活動と考えられ、運営や指導は地域の皆さんや保護者が担います。

### これまでの経過と現状

市では、社会体育移行に向けた課題の検討や調整を行うため「天草市小学校運動部活動社会体育移行検討委員会」を設置し、会議を重ねてきました。併せて、学校や既存のスポーツクラブ、体育協会や競技団体といった関係機関との意見交換や情報収集、県内や他県の実況調査、視察などを行ってきました。

本市は、学校規模や各校区

の置かれている事情が違うため、一つの在り方で社会体育移行を進めることは困難です。このことから、全ての小学校に学校やPTA、地域の有識者などで組織される校内検討委員会が設置され協議が行われています。

校内検討委員会では、

- ①部活動を引き継ぎ、保護者運営の社会体育クラブを新たに設立するののか
- ②学校が体育的活動の充実を図るののか
- ③地域にある既存のクラブを受け皿とするののか
- ④新たなクラブの立ち上げや総合型スポーツクラブを設立できないののか

など、それぞれの方向性が話し合われています。

| 県・市      | 学校                                                                 |
|----------|--------------------------------------------------------------------|
| 平成27年3月  | 熊本県教育委員会が「児童生徒のための運動部活動及びスポーツ活動の基本方針」策定。小学校の運動部活動を社会体育へ移行することが決まる。 |
| 平成27年10月 | 市に小学校社会体育支援コーディネーターを設置                                             |
| 平成28年2月～ | 第1回天草市小学校運動部活動社会体育移行検討委員会                                          |
|          | 第2回(平成28年7月)、第3回(平成28年12月)                                         |
|          | 第4回(平成29年2月)、第5回(平成29年7月)                                          |
| 平成31年3月末 | 小学校の運動部活動の終了                                                       |

平成31年4月 社会体育へ完全移行

# 変わる子どもたちの放課後

小学校運動部活動の社会体育移行

これまでの流れ



## 弓も気持ちも張って 元気

しはんときゅうどう  
四半的弓道協会 天草ブロック

【問】本渡協会の倉田さん ☎094630  
(各協会への取り次ぎも行う)



4間半<sup>※1</sup>離れた4寸5分<sup>※2</sup>の的を真横に見て座り、姿勢を正す。4尺5寸<sup>※3</sup>の弓に同じ長さの矢を掛け、ねらいを定めてこと決断した瞬間、矢を放つ。長さや大きさが4半で統一されているこの「四半的弓道」。市には、本渡や牛深、有明、倉岳に協会があり、それぞれの地域で練習し、月に1、2度は県連盟公認の大会で技術を競っている。女性でも高齢でも続けられる生涯スポーツで、7月の大会にはご夫婦や97歳の姿もあった。

本渡四半的弓道協会の倉田さんは、「的に当てるだけの競技だが、心技体の充実が求められる。心に迷いがあると、弓に出ることもあり日々精進です」と話す。

普段着ででき、道具の貸し出しもあるため気軽に始められるが、競技人口の減少に悩み、祭り会場で体験会を実施したりと普及活動も行っている。

9月の松島と有明での大会に向け弓と気持ちを張って日々を過ごしている。

※1…4間半 約8・2m ※2…4寸5分 約13・6cm ※3…4尺5寸 約1・36m



優勝旗目指して  
がんばるぞ！



えいしんかん 栄心館 剣道

2年前に結成されたクラブで、幼児から中学生まで29人で活動中(うち小学生は14人)。技術だけではなく「礼」の心も指導しています。一部、防具の貸し出しもあり。

練習 本渡東小学校体育館で、月・火・木・金曜日の午後7時～同9時まで(幼児、小学生は同8時30分まで)。

問 深水 広一さん ☎090(5727)8723

スポーツ大好きコ子

小学生社会体育クラブ紹介

## ミニバスケットボール 倉岳バスケットボールクラブ

小学生から中学生までの女子27人(うち小学生は16人)で活動しています。バスケットをやってみたい人、上手になりたい人、楽しく練習しましょう。

指導者も募集中です。

練習 倉岳体育館で、水曜日の午後6時～同7時30分まで。

問 藤崎 真二さん ☎090(7469)8508

ライバルチームに勝つために、楽しくがんばっています。



## 社会体育移行は 地域の教育力を生かすチャンス

平成27年10月にコーディネーターに任命され、小学校や関係機関を訪問しながら情報を集めてきました。部活動があるのが当たり前<sup>※</sup>の状況で私自身も手探りの状態でしたが、子どもたちに部活動に代わる運動する場を準備してあげたいという思いで取り組んでいます。

話を聞く中で多いのが、指導者をどう確保したらいいのかといった心配です。実際に社会体育クラブを立ち上げるに当たって、誰かに指導者を引き受けてもらうことは大きな課題です。

指導者に過度な負担をかけないで、話を聞く中で多いのが、指導者をどう確保したらいいのかといった心配です。実際に社会体育クラブを立ち上げるに当たって、誰かに指導者を引き受けてもらうことは大きな課題です。

地域社会で 子どもたちを育てる

地域の皆さんの力をお借りしないと社会体育移行は進みません。

放課後の子どもたちを地域で育てるために、どういうことができるのかを地域や保護者の皆さんに考えていただきたいと思っています。そのためのお手伝いを今後も行っていきたいと思っています。

## Interview

社会体育移行に向けた取り組みを支援する吉村コーディネーターにその思いを聞きました。



小学校社会体育支援  
コーディネーター

吉村 幸男さん

元校長。在職中は、天草郡市中体連会長、県中体連副会長などを歴任。自身は陸上(やり投げ)で高校生の時に全国大会に出場した経験を持つ。

## 今後の課題

移行に向けた課題も集約されてきており、市検討委員会で次の項目などについて協議・検討がなされています。

- 社会体育クラブの施設使用料の減免
- 社会体育クラブへの大会出場に係る助成金など
- 放課後から練習時間までの子どもの過ごし方
- 子どもたちの社会体育クラブへの送迎

## 各クラブの情報

各地域にある既存の社会体育クラブの情報は、市スポーツ振興課で調査し取りまとめている。近くで活動しているクラブや興味ある種目のクラブを知りたいときは、問い合わせください。

また、市政日より天草でも毎号2団体ずつ、社会体育クラブを紹介していきますので活用してください。

【問い合わせ先】 本庁・学校教育課(五和農業情報センター内) ☎09002  
スポーツ振興課(天草市民センター内) ☎096783